

# 筋原地区活性化計画

平成27(2015)年3月

筋原自治区

(筋原地区地域計画策定委員会)



## 目 次

序章	計画策定にあたって	1
1 章	地区の概要	2
1	位置・面積	2
2	人口・世帯数	3
3	道路・交通	5
4	主要公共公益施設等	5
2 章	地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要	7
1	調査概要	7
2	調査結果	7
3 章	地区の魅力・資源と問題点・課題	18
1	地区の魅力・資源	18
2	地区の問題点・課題	20
4 章	地区の活性化計画	21
1	地区の将来像	21
2	地区づくりの基本方針	23
3	地区づくりの基本計画	24
4	計画の推進体制	32
資料	計画策定の取り組み	34



## 序章 計画策定にあたって

### 1 計画策定の目的

苧原地区は、苧原川沿いに広がる美しい田園集落で、商業施設や医療機関まで近く、比較的利便性に恵まれた地区です。三原市の中山間地域において地区人口は少ないものの住民相互の絆は強く、行事・祭りは地区総出で行うとともに、農地の管理を地区全体で取り組んでいます。しかしながら、若年層を中心に人口が流出するなど、高齢化・少子化が進行し、地区活動の担い手が不足してきているとともに活力が失われてきています。

こうした状況を打開するには、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、苧原自治区では、三原市中山間地域活性化事業を活用し、誰もが誇りをもち、自慢できる地区づくりを目指して「苧原地区活性化計画」の策定に取り組みました。

### 2 計画の役割

「苧原地区活性化計画」は、苧原自治区が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体などで地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、苧原地区出身者、都市住民など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

### 3 計画策定への取り組み

苧原自治区では、各種団体の代表者などとともに「苧原地区地域計画策定委員会」を設置し、「苧原地区活性化計画」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、地区内住民（16歳以上）へのアンケート調査の実施、地区住民全員を対象とした意見交換会（ワークショップ）を行いました。

### 4 計画の期間

計画の期間は、平成27(2015)～31(2019)年度までの5年間とします。

# 1章 地区の概要

## 1 位置・面積

本地区は、三原市久井地域の北部に位置しており、面積は約4.2km<sup>2</sup>です。

久井支所まで車を利用した場合約10分、三原市中心部までは約40分です。また、スーパーや病院のある世羅町中心部までは約10分です。

図1 筋原地区の位置



## 2 人口・世帯数

### (1) 人口の動向

本地区の総人口を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で110人になっており、過去5年間で29人減少しています。

年齢4区分別人口をみると、平成22(2010)年で0～14歳9人、15～64歳56人、65～74歳14人、75歳以上31人になっており、65歳以上の割合は約41%になっています。

年齢別にみると、過去5年間で75歳未満の各年齢層は減少、75歳以上は同数となっています。

表1 人口の推移 (単位：人，%)

区 分		平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増 減
実数	0～14歳	13	9	△ 4
	15～64歳	72	56	△ 16
	65～74歳	23	14	△ 9
	75歳以上	31	31	0
	合計	139	110	△ 29
割合	0～14歳	9.4	8.2	△ 1.2
	15～64歳	51.8	50.9	△ 0.9
	65～74歳	16.5	12.7	△ 3.8
	75歳以上	22.3	28.2	5.9

### (2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で41世帯になっており、過去5年間で5世帯減少しています。

1世帯当たり世帯人員は平成22(2010)年で2.68人になっており、過去5年間で0.34人減少しています。

表2 世帯数等の推移

区 分	平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増 減
世帯数 (世帯)	46	41	△ 5
世帯人員 (人)	3.02	2.68	△ 0.34

### (3) 人口の将来見通し

人口の将来見通しを平成17(2005)年と平成22(2010)年の国勢調査人口をもとに、年齢コーホート推移率法で推計すると、平成31(2019)年で70人、平成36(2024)年で約60人になり、平成22(2010)年と平成36(2024)年を比較すると約50人の減少が見込まれます。

年齢別に平成22(2010)年と平成36(2024)年の人口を比較すると、0～14歳、15～64歳及び75歳以上は減少し、65～74歳は増加するものと見込まれます。

また、高齢化率は、平成31(2019)年約54%、平成36(2024)年約70%と大幅に増加するものと見込まれます。内訳は、75歳以上は同程度ですが、65～74歳が大幅に増加します。

図2 年齢区分別人口推計

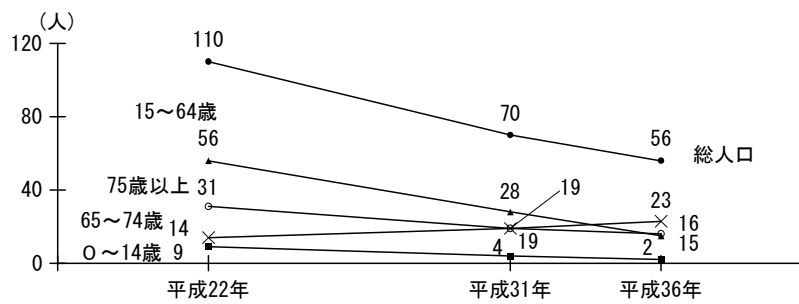
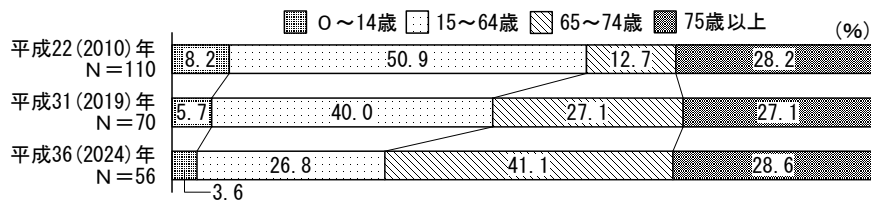


図3 年齢区分別人口割合





### 3 道路・交通

道路網は、主要地方道三原東城線が本地区の西端を南北に走り、三原市中心部及び世羅町中心部と連絡しています。また、地区の中央を市道が東西に走り、骨格道路となっています。

地区の公共交通としては、三原市中心部と世羅町中心部を連絡する路線バスが(主)三原東城線を運行しているほか、苜原地区と久井支所周辺及び江木地区中心部を連絡する久井ふれあいバスが週2日運行しています。

### 4 主要公共公益施設等

本地区には、文化集会施設として苜原コミュニティホーム、スポーツ施設として苜原福宝グラウンドゴルフ場があります。

表3 苜原地区の公共公益施設

区 分	名 称
文化集会施設	苜原コミュニティホーム
スポーツ施設	苜原福宝グラウンドゴルフ場
道路・交通	主要地方道三原東城線
	路線バス（甲山・三原線）
	久井ふれあいバス

図4 昴原地区の公共公益施設等



## 2章 地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要

### 1 調査概要

本調査は、地区内住民（16歳以上）の意見を把握し、「苧原地区活性化計画」の策定に反映するために行ったもので、対象者全員に調査票を配布しました。その結果、調査票の回収件数は105件でした。

### 2 調査結果

#### (1) 回答者自身について

回答者の性別は、「男性」50.5%、「女性」46.7%でほぼ同程度です。

年齢は、「50歳代」が21.9%で最も割合が高く、次いで「75～84歳」21.0%、「65～74歳」14.3%、「20歳代」及び「60～64歳」11.4%、「85歳以上」6.7%、「30歳代」及び「40歳代」5.7%、「19歳以下」1.9%の順になっており、65歳以上が4割以上を占めています。

家族構成は、「三世代・四世代」が30.5%で最も割合が高く、次いで「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」19.0%、「二世代（子どもと同居）」17.1%、「二世代（親と同居）」14.3%、「一人暮らし（65歳以上）」及び「夫婦二人暮らし（夫婦ともに65歳未満）」6.7%、「一人暮らし（65歳未満）」2.9%の順になっており、「一人暮らし（65歳以上）」と「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」を合わせた割合が約1/4を占めています。

図5 性別

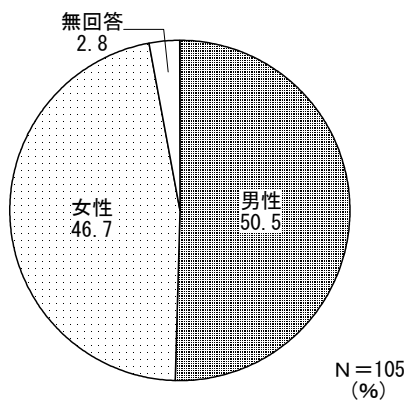


図6 年齢

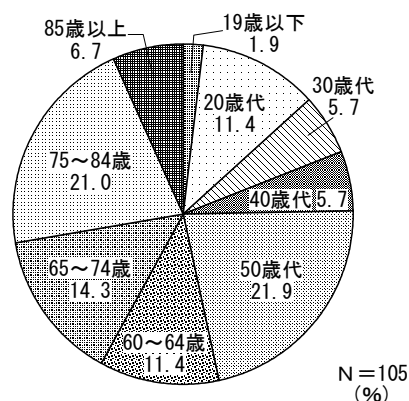
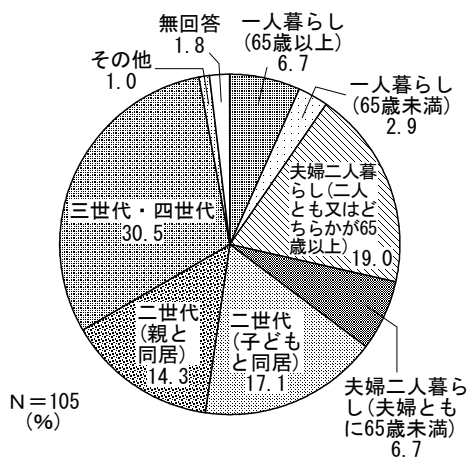


図7 家族構成



## (2) 行事・活動への参加状況と満足度

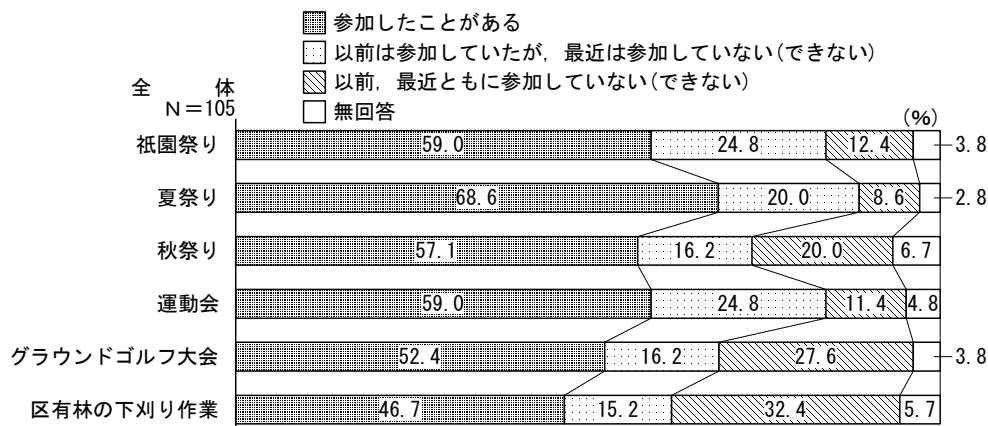
### ア 行事・活動への参加状況

行事・活動へ「参加したことがある」と答えた人をみると、「夏祭り」が68.6%で最も割合が高く、次いで「祇園祭り」及び「運動会」59.0%、「秋祭り」57.1%、「グラウンドゴルフ大会」52.4%、「区有林の下刈り作業」46.7%の順です。

また、「以前は参加していたが、最近では参加していない(できない)」と答えた人をみると、「祇園祭り」及び「運動会」が24.8%でやや割合が高くなっています。

さらに、「以前、最近ともに参加していない(できない)」と答えた人をみると、「区有林の下刈り作業」及び「グラウンドゴルフ大会」が30%前後でやや割合が高くなっています。

図8 参加状況

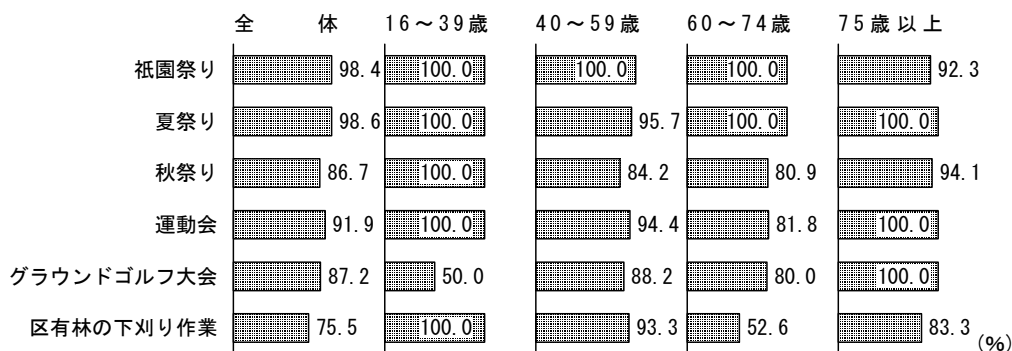


### イ 行事・活動に参加した人の満足度

行事や活動へ参加している人の満足度（「良い」と「やや良い」を合わせた割合）をみると、90%台3項目、80%台2項目、70%台1項目で、全ての項目で満足度が高くなっています。特に、「夏祭り」及び「祇園祭り」は100%近くになっています。

年齢別に満足度をみると、16～39歳の「グラウンドゴルフ大会」及び60～74歳の「区有林の下刈り作業」が50%台と割合が低くなっている以外は80%以上になっています。

図9 満足度

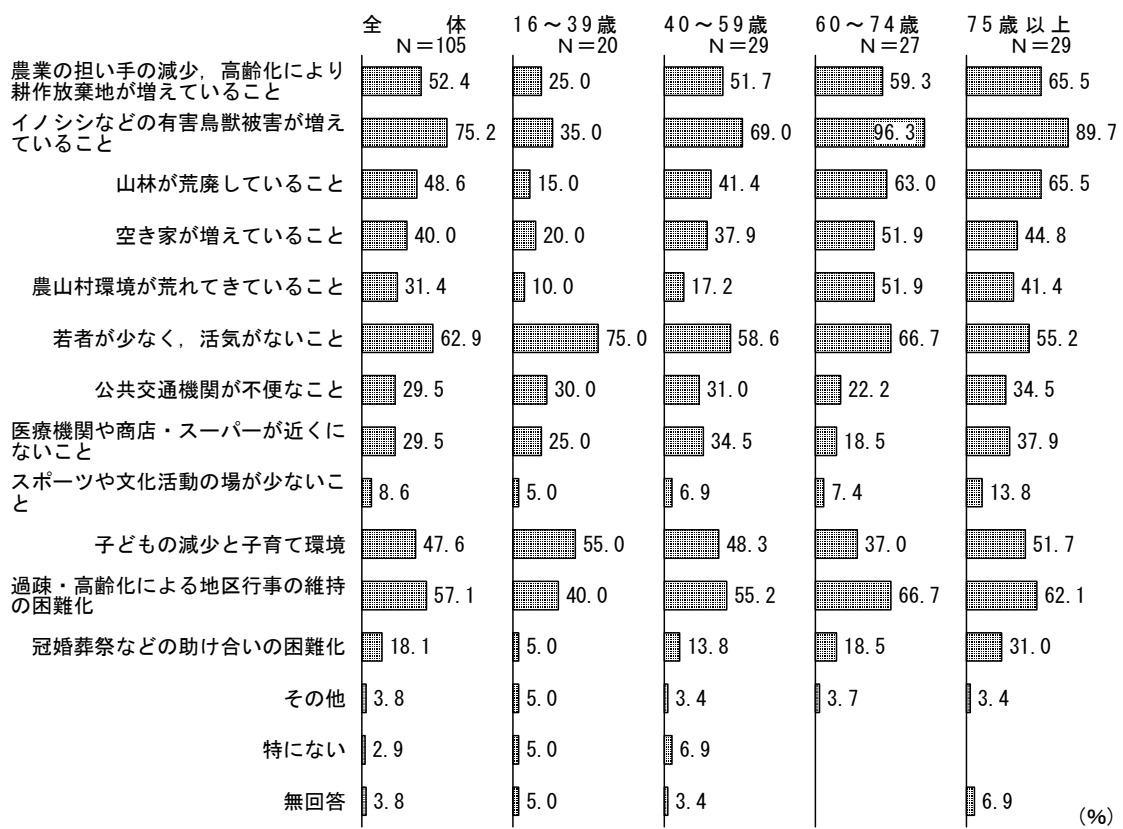


### (3) 地区の現状や将来のことでの不安や今後の居住意向

#### ア 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること

地区の現状や将来のことでの不安に思っていることは、「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」が75.2%で最も割合が高く、次いで「若者が少なく、活気がないこと」62.9%、「過疎・高齢化による地区行事の維持の困難化」57.1%、「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」52.4%、「山林が荒廃していること」48.6%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「子どもの減少と子育て環境」47.6%、「空き家が増えていること」40.0%などの順です。

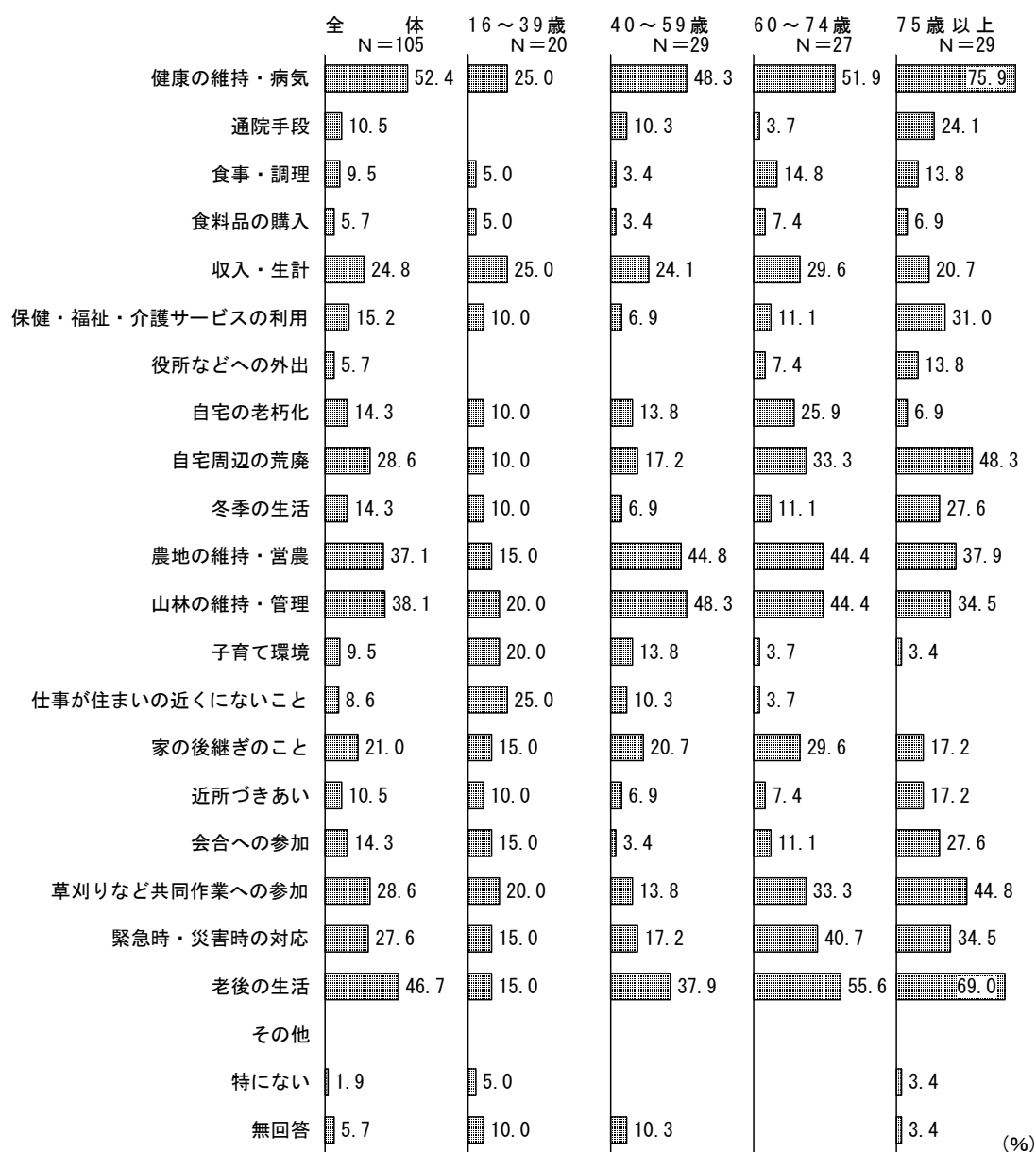
図10 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



## イ 個人や家族のことで不安に思っていること

個人や家族のことで不安に思っていることは、「健康の維持・病気」が52.4%で最も割合が高く、次いで「老後の生活」46.7%、「山林の維持・管理」38.1%、「農地の維持・営農」37.1%、「自宅周辺の荒廃」及び「草刈りなど共同作業への参加」28.6%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「緊急時・災害時の対応」27.6%、「収入・生計」24.8%、「家の後継ぎのこと」21.0%などの順です。

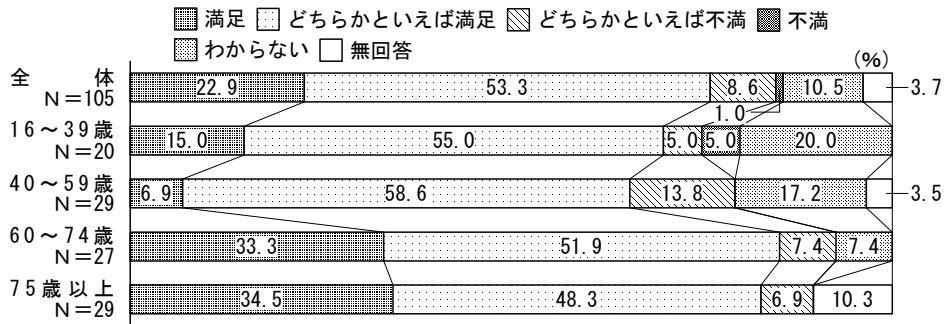
図11 個人や家族のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



### ウ 地区の住みやすさの評価

地区の住みやすさについては、「満足」22.9%、「どちらかといえば満足」53.3%で、これらを合わせた住みやすさに満足している人の割合は76.2%と大部分を占めています。

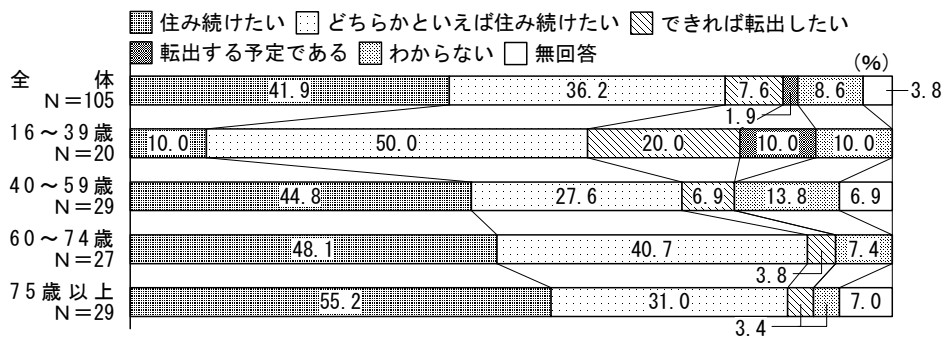
図12 地区の住みやすさの評価



### エ 地区への今後の居住意向

地区への今後の居住意向は、「住み続けたい」41.9%、「どちらかといえば住み続けたい」36.2%で、これらを合わせた地区へ住み続ける意向の人は約8割です。

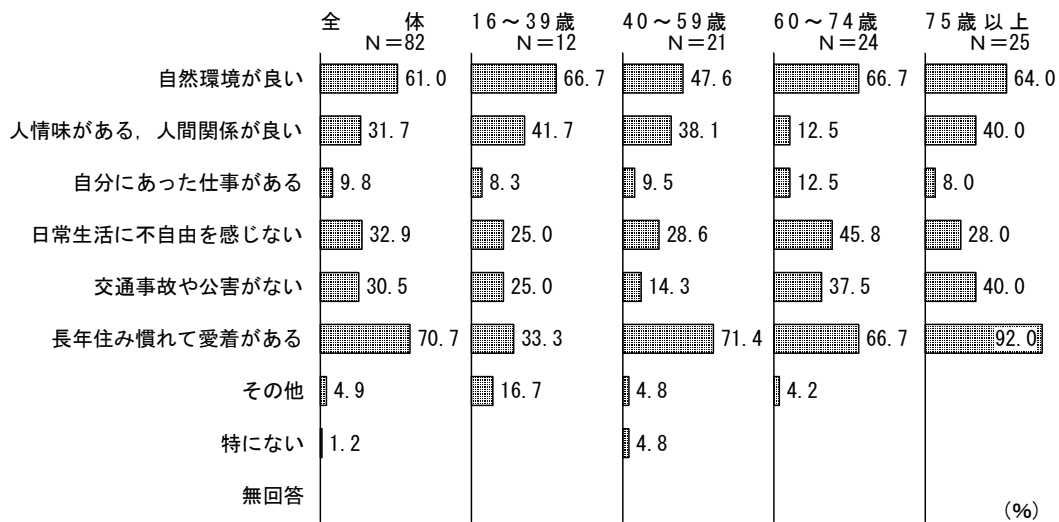
図13 地区への今後の居住意向



### オ 地区に住み続けたいと思う理由

地区に住み続ける意向のある人の住み続けたいと思う理由としては、「長年住み慣れて愛着がある」が70.7%で最も割合が高く、次いで「自然環境が良い」61.0%の順で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「日常生活に不自由を感じない」32.9%、「人情味がある、人間関係が良い」31.7%、「交通事故や公害がない」30.5%などの順です。

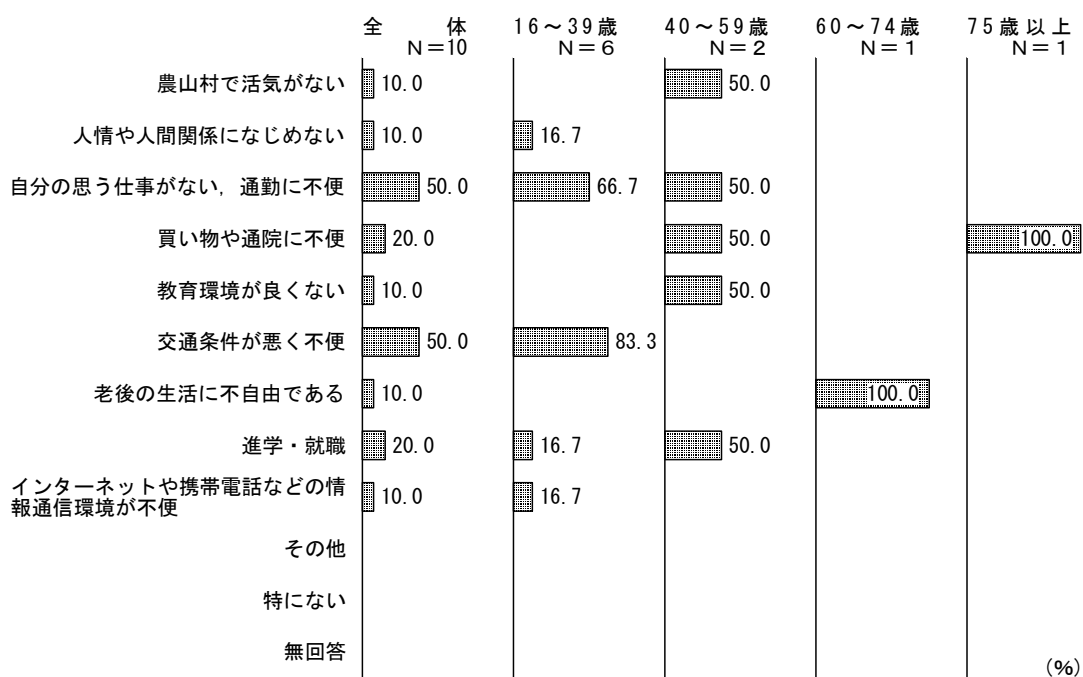
図14 地区に住み続けたいと思う理由（複数回答：いくつでも）



### カ 地区を転出したいと思う理由

地区を転出する意向のある人の地区を転出したいと思う理由としては、「自分の思う仕事がない、通勤に不便」及び「交通条件が悪く不便」が50.0%で半数を占めています。

図15 地区を転出したいと思う理由（複数回答：いくつでも）



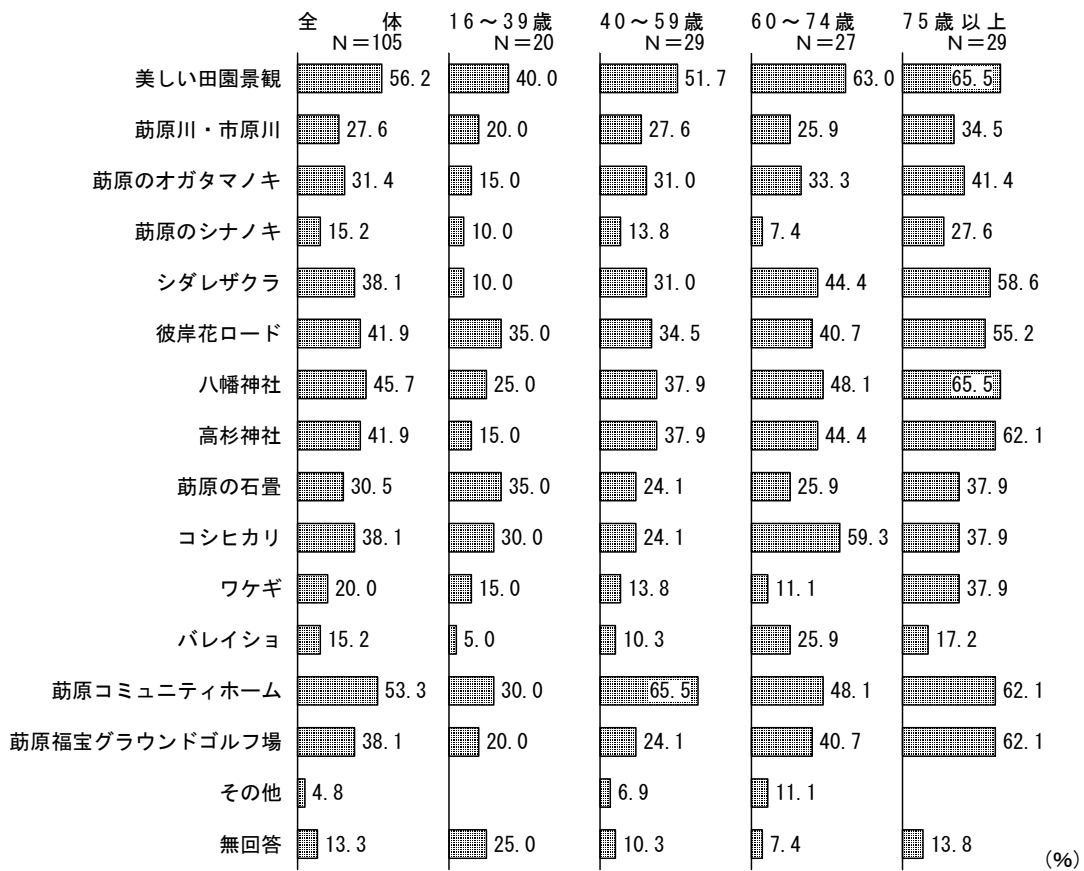


#### (4) 今後の地区づくりについて

##### ア 地区で大事にしたい、活用したい資源

地区で大事にしたい、活用したい資源としては、「美しい田園景観」が56.2%で最も割合が高く、次いで「筋原コミュニティホーム」53.3%、「八幡神社」45.7%、「彼岸花ロード」及び「高杉神社」41.9%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「シダレザクラ」、「コシヒカリ」及び「筋原福宝グラウンドゴルフ場」38.1%、「筋原のオガタマノキ」31.4%、「筋原の石畳」30.5%などの順です。

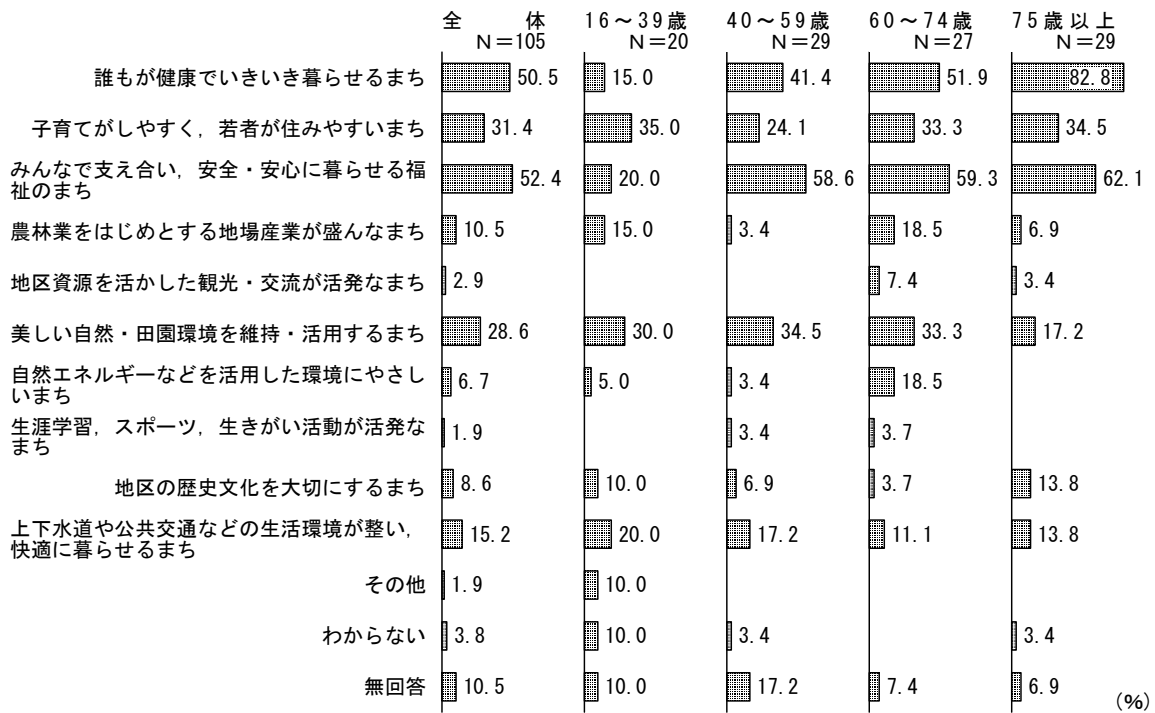
図16 地区で大事にしたい、活用したい資源（複数回答：いくつでも）



## イ 地区の将来像

地区の将来像は、「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」が52.4%で最も割合が高く、次いで「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」50.5%の順で、この2項目が5割を超えています。その他では、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」31.4%、「美しい自然・田園環境を維持・活用するまち」28.6%などの順です。

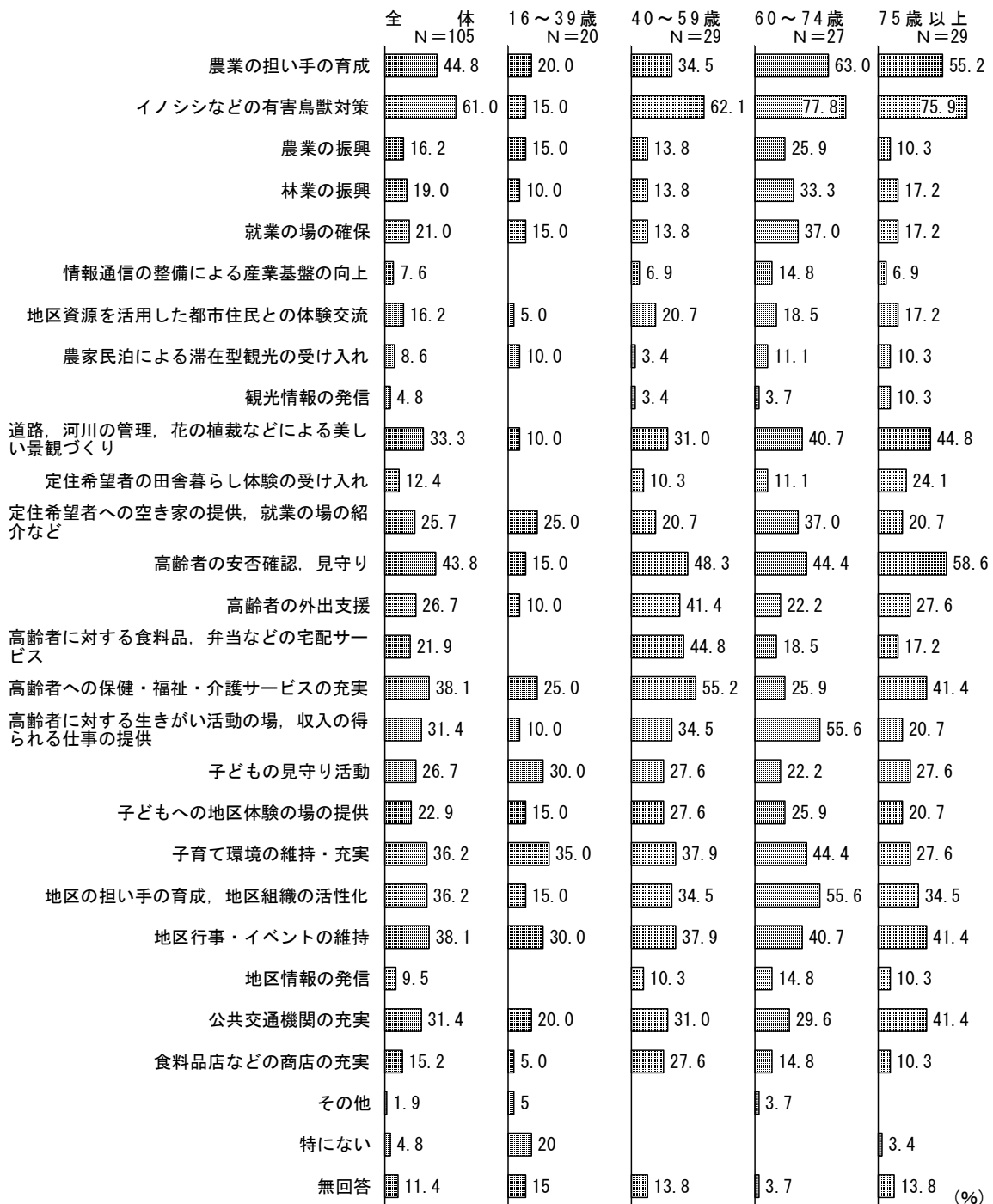
図17 地区の将来像（複数回答：3つ以内）



### ウ 地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと

地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいことは、「イノシシなどの有害鳥獣対策」が61.0%で最も割合が高く、次いで「農業の担い手の育成」44.8%、「高齢者の安否確認、見守り」43.8%、「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」及び「地区行事・イベントの維持」38.1%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「子育て環境の維持・充実」及び「地区の担い手の育成、地区組織の活性化」36.2%、「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」33.3%、「高齢者に対する生きがい活動の場、収入の得られる仕事の提供」及び「公共交通機関の充実」31.4%などの順です。

図18 地区で今後取り組みたいこと、取り組んで欲しいこと（複数回答：いくつでも）

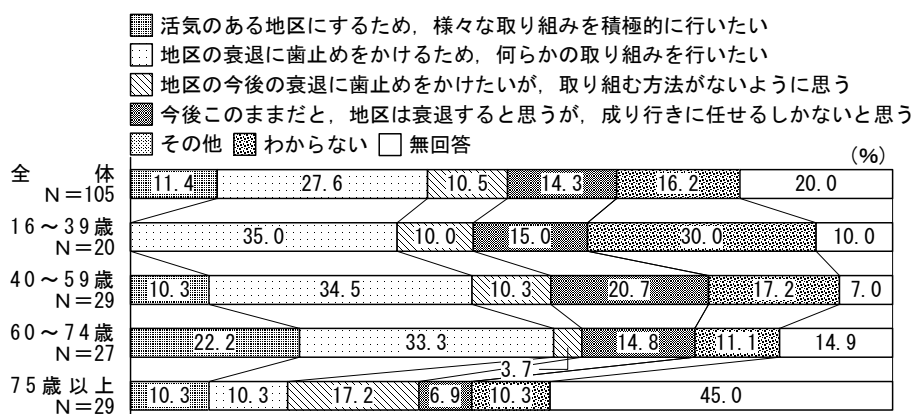


## (5) 昴原自治区の活動について

### ア 昴原地区の活性化に向けての取り組み意向

地区の活性化に向けての取り組み意向については、「活気のある地区にするため、様々な取り組みを積極的に行いたい」11.4%、「地区の衰退に歯止めをかけるため、何らかの取り組みを行いたい」27.6%で、これらを合わせた地区の活性化を図るために何らかの取り組みをしたいと考えている人は約4割です。

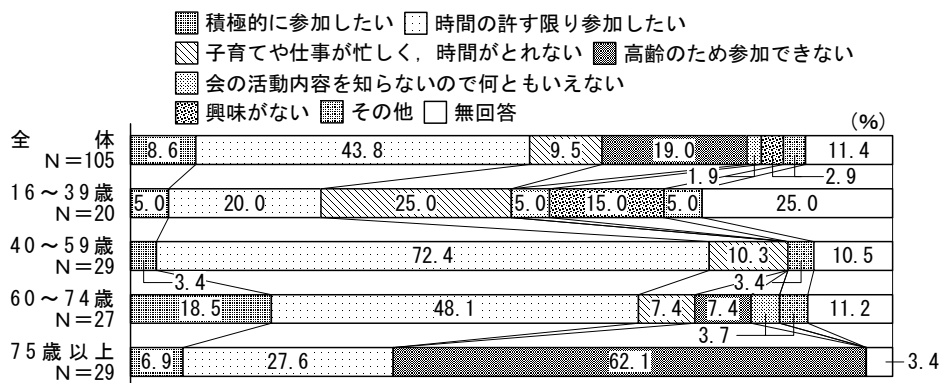
図19 昴原地区の活性化に向けての取り組み意向



### イ 昴原自治区の活動への参加意向

昴原自治区の活動への参加については、「積極的に参加したい」8.6%、「時間の許す限り参加したい」43.8%で、これらを合わせた自治区の活動へ参加意向のある人は5割以上です。

図20 昴原自治区の活動への参加意向

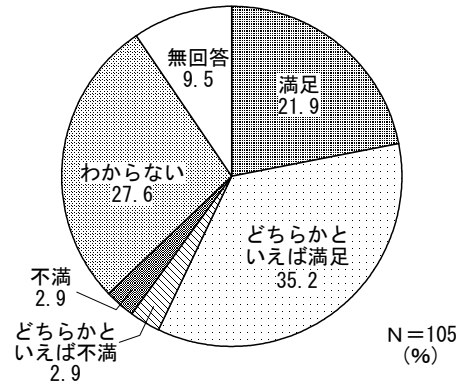


## (6) 「農事組合法人あぞうばら」の活動について

### ア 活動に対する評価

「農事組合法人あぞうばら」の活動については、「満足」21.9%、「どちらかといえば満足」35.2%で、これらを合わせた活動に満足している人の割合は57.1%を占めています。一方、「不満」と「どちらかといえば不満」を合わせた活動に不満な人の割合は5.8%とわずかです。また、「わからない」が27.6%になっており、「農事組合法人あぞうばら」の活動を知らない人が一定割合を占めています。

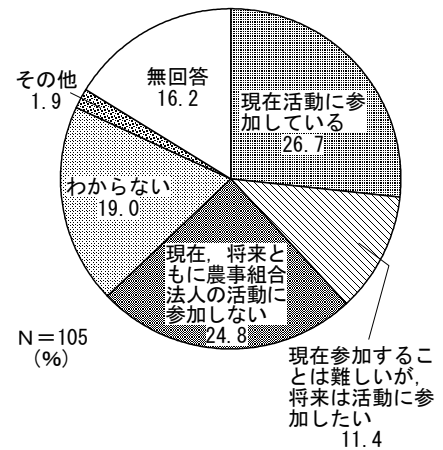
図21 活動に対する評価



### イ 活動の担い手としての参加意向

「農事組合法人あぞうばら」の活動の担い手としての参加意向は、「現在活動に参加している」が26.7%で約1/4になっています。また、「現在参加することは難しいが、将来は活動に参加したい」が11.4%になっており、一定割合の人が農事組合法人の活動へ新規に参加する意向を持っています。

図22 活動の担い手としての参加意向



### 3章 地区の魅力・資源と問題点・課題

#### 1 地区の魅力・資源

アンケート調査結果及び意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表4 地区の魅力・資源

区 分	地区の魅力・資源
自然資源	<ul style="list-style-type: none"><li>・美しい田園景観, 四季の風景</li><li>・彼岸花ロードの美しい景色</li><li>・シダレザクラ, オガタマノキ</li><li>・ふくろうが毎年巣をかける家</li><li>・蒔原川</li><li>・水源が多い, 大草田市原川</li><li>・ホタルの飛翔場所</li><li>・ため池が多い（9か所）</li><li>・眺望の良い場所</li></ul>
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"><li>・蒔原の石畳</li><li>・八幡神社, 高杉神社</li><li>・伝統行事（夏祭り, 祇園祭り等）</li></ul>
農地・農業	<ul style="list-style-type: none"><li>・蒔原の農産物, 特産物</li><li>・農地を守る組織がある（農事組合法人あぞうばら）</li><li>・久井高原牧場（雲の上の牧場：牛, 牛乳）</li></ul>
林地・林業	<ul style="list-style-type: none"><li>・山林, まつたけ</li></ul>
人材・組織	<ul style="list-style-type: none"><li>・近所付き合いが良い（まとまりやすい）</li><li>・地区が狭く, 顔もわかり, 声もかけやすい</li><li>・元気な高齢者が多い</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・蒔原コミュニティホーム</li><li>・蒔原福宝グラウンドゴルフ場</li></ul>

図23 地区の魅力・資源



## 2 地区の問題点・課題

アンケート調査結果及び意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の問題点・課題を整理すると、次のとおりです。

表5 地区の問題点・課題

区分	地区の問題点・課題
地区全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区人口が100人を割る状況であり、何をするにも担い手不足である</li> </ul>
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし及び高齢者のみの世帯が増えている</li> <li>・認知症気味の高齢者が増えている</li> <li>・高齢者が家、庭の管理が難しくなっている</li> <li>・高齢者の運転が危険、運転マナーが悪い</li> <li>・自家用車が運転できなくなった時の生活（病院、買い物）が不安である</li> <li>・老老介護が不安である</li> </ul>
若者の定住、子ども・子育て	<p>&lt;若者定住&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業がないため、若者が定住しにくい</li> <li>・若い人の集まる場所がない</li> </ul> <p>&lt;子ども&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが少なく、子どもを通しての地区交流がなくなった</li> <li>・ブランコ、遊具が古くなっている</li> <li>・子どもの遊び場が少ない</li> <li>・孫が帰って来ても、遊ばせる場所がない</li> </ul>
農地管理・農業	<p>&lt;有害鳥獣&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有害鳥獣が増え、被害が増えている</li> </ul> <p>&lt;農業の担い手&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業後継者がいない</li> <li>・農事組合法人の担い手も高齢化し、今後の担い手の確保に不安がある（60歳代が一番若い）</li> </ul>
山林管理・林業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山林の管理が行き届いていない</li> </ul>
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路が狭く、歩道が未整備である</li> <li>・平坦な道が少ない、散歩しづらい</li> <li>・久井ふれあいバスが不便である</li> <li>・空き家が増加し、地区景観を阻害している</li> <li>・大雨の時の水害が心配である</li> <li>・コミュニティホームが避難場所だが、安全な避難場所といえない</li> </ul>
地区活動・近隣関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者中心の行事がない</li> <li>・行事に人が集まらない</li> <li>・高齢化が進行し、組運営に問題が生じている</li> </ul>

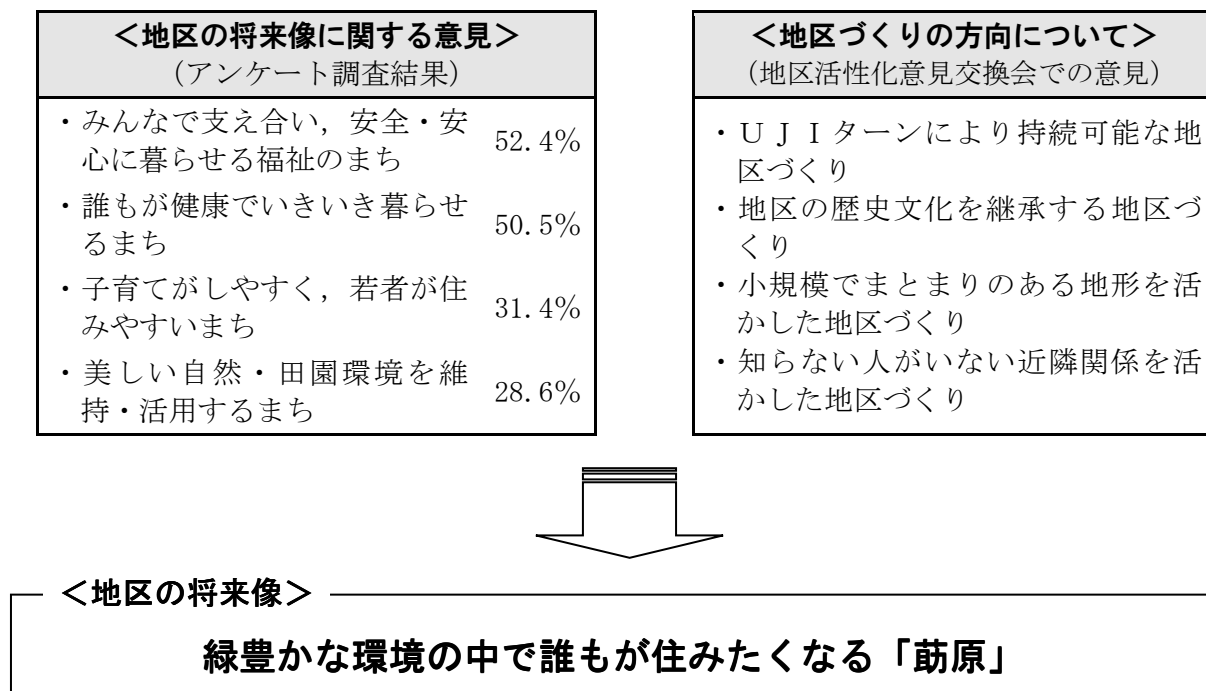


## 4章 地区の活性化計画

### 1 地区の将来像

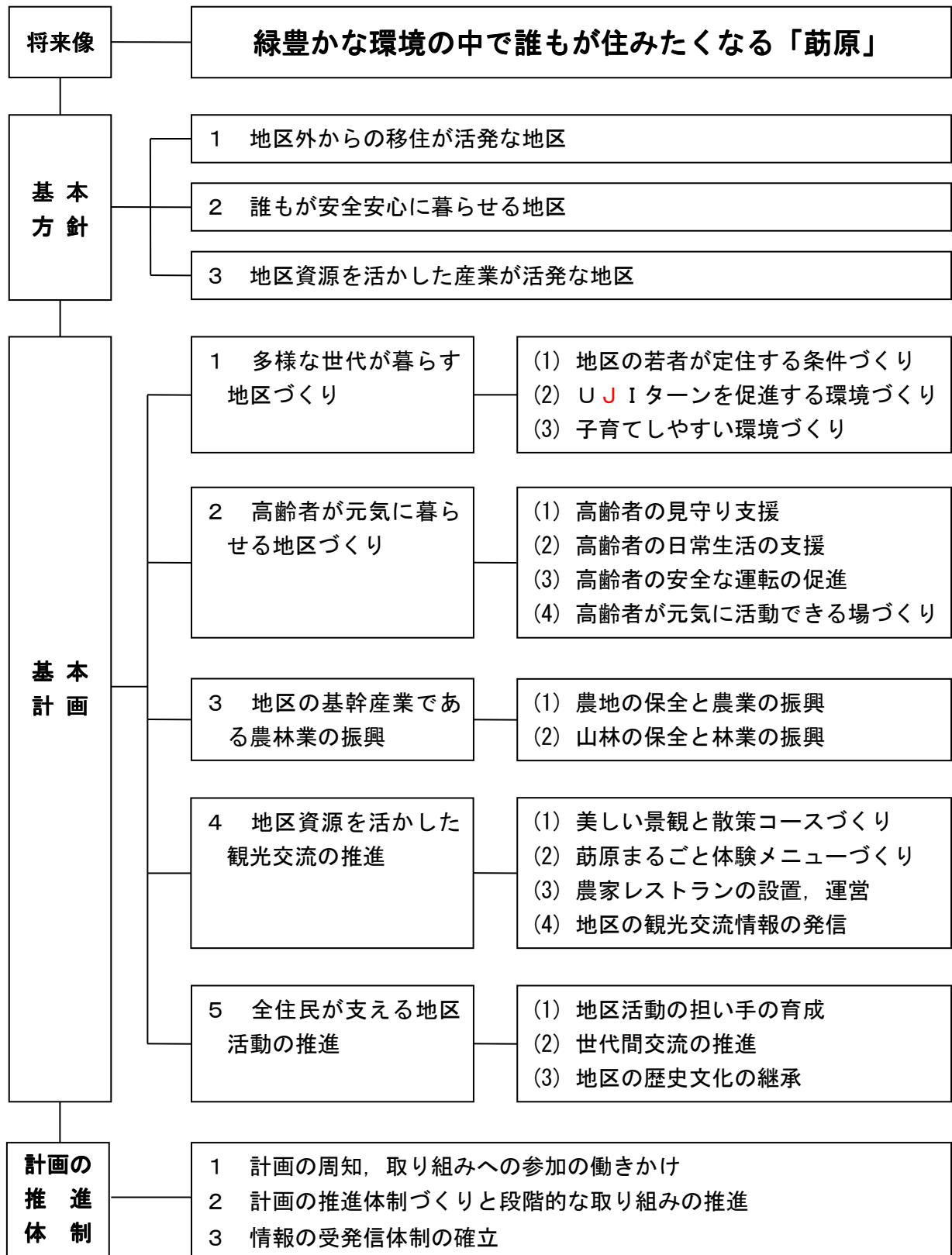
地区の将来像は、アンケート結果での地区の将来像に関する意見と地区活性化意見交換会（ワークショップ）での地区づくりの方向に関する意見を踏まえて、「緑豊かな環境の中で誰もが住みたくなる「筋原」」を掲げます。

図24 地区の将来像



地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本方針、基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図25 地区づくりの体系



## 2 地区づくりの基本方針

地区の将来像を実現するために、3つの基本方針を掲げます。

### 1 地区外からの移住が活発な地区

- ・地区の魅力が広域的に発信されている地区
- ・地区出身者が帰省したくなる地区，都市住民が移住したくなる地区  
(U J I ターンしたくなる魅力的な地区)
- ・U J I ターンを地区全体で温かく支える地区

### 2 誰もが安全安心に暮らせる地区

- ・高齢者が安全安心かつ生きがいを持って暮らす地区
- ・若者と子どもが郷土愛と誇りを持って暮らす地区
- ・地区活動に全員が参加し，共に支え合う地区

### 3 地区資源を活かした産業が活発な地区

- ・農林地の保全と活用，農事組合法人を核とした農業が活発に展開される地区
- ・美しい田園景観，自然・歴史文化資源などを活かし，都市住民との交流が活発な地区

### 3 地区づくりの基本計画

地区の将来像及び基本方針を踏まえて、地区づくりの基本計画において5つの柱と主な取り組みを掲げます。

この内容はアンケート調査結果、地区活性化意見交換会（ワークショップ）での意見をもとにとりまとめたものです。

## 1 多様な世代が暮らす地区づくり

### (1) 地区の若者が定住する条件づくり

- ・若者の就労の場（農事組合法人あぞうばら等）を確保し、地区で育った若者の定住を促進します。
- ・若い人が交流できる場を確保します。

### (2) U J I ターンを促進する環境づくり

#### ア 地区出身者のUターンの促進

- ・地区出身者と定期的な交流を行い、地区に対する関心を醸成します。
- ・空き家を所有している地区出身家族などに対してUターンを働きかけるとともに、住宅の修繕、就業の場の確保などの相談に対応します。

#### イ Iターンの促進

- ・助原地区で空き家バンク事業を行うための体制づくり（所有者の確認、意向調査、貸出・売却条件等の把握等）を行うとともに、行政と連携して都市住民に広くPRし、移住の促進を図ります。
- ・空き家を活用して体験宿泊施設（ゲストハウス）を整備し、短期滞在する中で移住希望者に地区の魅力を発信し、Iターンに結びつけます。

#### ウ U J I ターン情報の発信

- ・地区のホームページなどで、地区の魅力、行事・祭りなどの情報発信を行い、地区出身者、都市住民との交流、U J I ターンを促進します。

#### エ U J I ターン者に対する総合的な支援

- ・U J I ターン者が地区の生活に馴染め、安定した暮らしが送れるように、地区を挙げて支援します。

### (3) 子育てしやすい環境づくり

- ・人数が少なくなった子どもが日常的に交流できるように、旧久井小学校の遊具を譲り受けるなどして、遊び場を整備します。
- ・子どもと住民がふれあうイベントを検討し、地区を挙げて盛り上げます。

## 2 高齢者が元気に暮らせる地区づくり

### (1) 高齢者の見守り支援

- ・高齢者のみの世帯の見守りサポート体制づくり（近所の声かけ，見守りサポーターの確保，連絡体制等）を行います。
- ・タブレット端末を活用した高齢者の見守りを検討します。
- ・緊急時に迅速な対応ができるように，高齢者の暮らしの状況がわかる安心カード（連絡先，血液型，通院先等を記載したカード）づくりを進めます。
- ・介護施設の入所が難しい状況にあり，介護者のいる家族を地区で支援する対策を検討し，実施します。

### (2) 高齢者の日常生活の支援

#### ア 外出の支援

- ・高齢者の外出を支援するため，地区内で高齢者をボランティアで送迎することや久井ふれあいバスの運行方法の見直しなどを行政と連携して検討します。

#### イ 買い物の支援

- ・移動販売車の地区内巡回を移動販売事業者に働きかけます。
- ・高齢者に地区の商業者が行っている宅配サービス（ご用聞きサービス）について周知します。
- ・地区内で，外出時に高齢者に声をかけ，買い物を支援する体制づくりを行います。

#### ウ その他の日常生活の支援

- ・ひとり暮らしの人の家，庭の掃除などを支援する体制づくりを行います。
- ・オレオレ詐欺などの被害を予防する講習会を，関係団体と連携して開催します。

### (3) 高齢者の安全な運転の促進

- ・関係団体と協力して，高齢者の運転マナー講習会を開催し，安全運転を指導します。
- ・自家用車の運転が危険な状態になっている人に，免許返納を働きかけます。

#### (4) 高齢者が元気に活動できる場づくり

##### ア 高齢者サロンの充実

- ・ 高齢者サロンを拡充します。
- ・ 引きこもりの防止，高齢者が外出するきっかけとするために，本格的な料理の食事会の開催を検討します。

##### イ 元気な高齢者の生きがい活動の確保

- ・ シルバー人材センターへの登録を働きかけ，高齢者の就業の場の確保を図ります。
- ・ 野菜（果物）の栽培，野菜市などでの販売，組織化の取り組みなどを通じて，高齢者の活躍の場づくりを行います。
- ・ 高齢者の経験・知識を活用して，歴史文化，伝統行事の継承を行います。

表 6 具体的に取り組む事業

事業名	・ 高齢者見守りサポート・交流推進事業
事業の目的	・ 高齢者，障害者の安心・安全の確保，交流の場づくり
事業の対象	・ 高齢者，障害者
事業の内容	・ 対象者（一人暮らし，高齢者のみの世帯）への訪問等による安否確認，声かけ ・ 高齢者の経験・知識を活用した苮原地区の歴史文化，伝統行事の継承と生きがい活動の場の提供 ・ 誰もが集える交流の場づくり（苮原コミュニティホーム） ・ 高齢者サロンの充実 ・ 活動場所としての空き家の活用
事業の年次計画	平成27年度：体制づくり，先進地視察，試験的实施 平成28年度：事業開始
連携する組織等	・ 社会福祉協議会，民生委員・児童委員等 ・ 高齢者サロンボランティア，長寿会（老人クラブ）

### 3 地区の基幹産業である農林業の振興

#### (1) 農地の保全と農業の振興

##### ア 有害鳥獣被害防止対策

- ・地区全体に有害鳥獣防護柵の設置，補強を行います。
- ・イノシシの嫌がるものの研究など，地区全体で総合的な対策を検討します。

##### イ 農地の保全と農業の担い手の確保

- ・雑草防除対策として，水田の畦へのセンチピートグラスの植え付けに取り組みます。
- ・農事組合法人において，トラクター，オペレーターを増員するなど活動の強化を働きかけ，経営が持続されるように地区を挙げて支援します。
- ・農事組合法人へ都市部から就農希望者が来るように，地区全体で受入体制づくりを行います。

##### ウ 農業の振興

- ・地区で生産しているコシヒカリ，カブなどのブランド化に取り組み，高付加価値化して販売します。
- ・久井高原牧場の経営者と連携して，ローストビーフなどの製造・販売に取り組みます。

表7 具体的に取り組む事業

事業名	・有害鳥獣（イノシシ）撃退・環境保全事業
事業の目的	・農作物の有害鳥獣被害の防止及び住民の安全の確保と地区環境の保全
事業の対象	・荻原地区全域
事業の内容	<p>&lt;イノシシ撃退対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有害鳥獣被害対策への住民意識の醸成（研修会の開催）を図り，区民協力体制を築く</li> <li>・具体的なイノシシ撃退対策の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワイヤーメッシュ設置，山側の草刈</li> <li>・箱罾の設置，管理・運営</li> <li>・猟友会によるイノシシの駆除</li> <li>・除草シート（アグリシート）を法面に貼る</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;関連事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノシシ（肉）を活用した特産品，名物料理づくり</li> <li>・秋の収穫祭を行う（秋祭りと一緒に）</li> <li>・雑草対策として，センチピートグラスを植栽できる体制を確立する</li> <li>・畦に芝桜を植える</li> <li>・草刈り応援隊をつくる</li> </ul>
事業の年次計画	平成27年度：実施，研修等 平成28年度～：検証・評価，新たな取り組み
連携する組織等	・農事組合法人あぞうばら，猟友会等

## (2) 山林の保全と林業の振興

### ア 山林の保全対策

- ・山林の現在の状況を現地調査したうえで、対策を検討します。
- ・地区全体で木材を使う生活スタイル（木材からペレットを製造し、燃料として使用する）に転換する事を検討します。

### イ 林業の振興

- ・薪，炭づくりを行うとともに製品販売に取り組みます。
- ・マツタケ山の再生（間伐，下刈り等）によるマツタケ狩り，すき焼きパーティーなどのイベントを開催して，都市住民との交流に取り組みます。



## 4 地区資源を活かした観光交流の推進

### (1) 美しい景観と散策コースづくり

- ・彼岸花ロードの魅力を高めるとともに、蒔原川沿いへ桜、柳を植栽し、美しい景観づくりを行います。
- ・しだれ桜の観賞客が多いため、観賞しやすい環境に整備します。
- ・地区住民、来訪客が四季折々に散策するウォーキングロードを蒔原川沿いに整備します。

### (2) 蒔原まるごと体験交流メニューづくり

- ・来訪客が地区を満喫できるように、蒔原の多様な体験交流メニューを提供します。

#### ア 四季に応じた体験交流メニューづくり

- ・四季に応じた体験を提供します。
  - ・春：田植え体験
  - ・夏：アザミ、ホタルの観賞
  - ・秋：彼岸花ロードの観賞、稲刈り体験

#### イ 自然資源を活用した体験交流メニューづくり

- ・ホタルの里づくりに向けて、蒔原川源流の清掃美化、ホタルの養殖などを行います。
- ・大草田池などのため池で釣りができるように、環境整備を検討します。
- ・里山に遊歩道を整備し、ハイキングコースづくりを行います。

#### ウ 歴史文化資源を活用した体験交流メニューづくり

- ・蒔原石畳一帯の環境整備に取り組み、他地区の資源と連携して歴史文化散策コースづくりに結びつけます。

#### エ イベントの開催

- ・地区資源を活かし、広域から来訪客を集客できるイベントの開催を検討します。

#### オ 周辺観光交流施設との連携

- ・久井地域全域を対象としたサイクリングロードの整備に取り組みます。
- ・久井の岩海自然公園、宇根山天文台、吉田のギンモクセイなどを活用し、久井地域全体を楽しむ周遊コースづくりに取り組みます。

### (3) 農家レストランの設置、運営

- ・地区の眺望が良好な場所にある古民家を活用した農家レストランを整備し、地区住民、来訪客に対して地産地消料理（地区の農産物・特産品、イノシシ肉等の活用）の提供に取り組みます。

#### (4) 地区の観光交流情報の発信

- ・情報発信力のあるアマチュアカメラマンに、春：しだれ桜、夏：祇園祭り、ホテル、秋：彼岸花、冬：雪の中の三ツ池などの景色の撮影と、インターネットなど通じて苅原の魅力をPRしてもらい取り組みを推進します。
- ・インターネットを活用して、地区の観光交流に関する情報発信を行います。

表8 具体的に取り組む事業

事業名	・苅原地区魅力発信事業
事業の目的	・苅原地区の魅力を再確認するとともに広域的にPRする
事業の対象	・地区住民，地区出身者，都市住民
事業の内容	・苅原魅力資源マップの作成，印刷 ・地区案内看板，資源ごとの案内看板の設置 ・地区のホームページで苅原の魅力を紹介
事業の年次計画	平成27年度　：魅力資源の現地調査，まとめ 平成28年度　：観光マップ作製，印刷，ホームページの作製 平成29年度～：観光交流資源の整備，観光振興プランの策定，体験ツアーの実施
連携する組織等	・女性会，サロン，長寿会，子ども会，農事組合法人

## 5 全住民が支える地区活動の推進

### (1) 地区活動の担い手の育成

- ・若者が参加しやすく、主役になれる場づくりを行うなどにより、若者のリーダー育成に取り組みます。

### (2) 世代間交流の推進

- ・高齢者と子どもの交流または地区住民全員が参加できる秋祭りなどの行事の開催に取り組みます。
- ・子ども（小学生・中学生）が主役のイベント（例：泥んこバレー）を開催し、他世代はスタッフ、応援で参加、交流することにより、イベントを盛り上げます。また、広域的なイベントになるよう、段階的にステップアップを図ります。
  - ・ステップ1：筋原地区で開催
  - ・ステップ2：久井小学校区を単位で開催
  - ・ステップ3：都市住民の参加を得て開催

### (3) 地区の歴史文化の継承

#### ア 伝統行事の継承、復活

- ・祇園祭りで奉納している「獅子」と「踊り」の継承を図ります。
- ・八幡神社、高杉神社の神楽殿を利用した神楽（秋祭り）の継承を図ります。
- ・筋原特有の盆踊りが忘れられつつあり、踊りの継承を図ります。

#### イ 筋原の歴史文化の継承

- ・筋原の歴史文化の掘り起こし、整理を行い、地区へ住むことの誇り、愛着の醸成に結びつけます。特に、子どもへ筋原の歴史文化を伝え、郷土愛を育み、定住に結びつけます。

#### <取り組み内容>

- ・遺跡などの現地調査
- ・高齢者から伝統行事、風習、昔話などの聞き取り
- ・明治以降の写真収集・整理、筋原の近代史の整理等

## 4 計画の推進体制

### (1) 計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

地区住民へあらゆる機会を通じて「苧原地区活性化計画」を周知するとともに，取り組みへの参加を働きかけます。

- ・ 苧原地区活性化計画概要版を全戸配布します。
- ・ 各組及び関係組織の会合で苧原地区活性化計画の説明を行います。

### (2) 計画の推進体制づくりと段階的な取り組みの推進

#### ア 計画の推進体制づくり

- ・ 人口が減少する中で，元気な住民全員の参加による地区づくり推進体制を確立します。（特に，若い世代の参加の働きかけ）
- ・ 苧原地区の各種団体との連携を強化し，一体的かつ幅広い活動を推進します。
- ・ 人材バンクの設置，登録により，適材適所の人材活用（できる人，やりたい人，ボランティア）を行います。

#### イ 段階的な取り組みの推進

- ・ 計画の優先順位付け（地区の重点課題への対応）を行い，段階的な取り組みを推進します。

##### ＜優先的に取り組む事業の候補＞

- ・ 高齢者見守りサポート・交流推進事業  
（見守り訪問，サロン等の交流の場づくり，子どもとの交流・歴史文化の継承）
- ・ 有害鳥獣（イノシシ）撃退・環境保全事業  
（有害鳥獣被害防止対策と連携した環境保全，美しい景観づくり等）
- ・ 苧原地区魅力発信事業  
（魅力資源マップ作成，案内看板設置，インターネットを活用した情報発信）

#### ウ 取り組みへの多様な担い手の参加の確保，人材の育成

- ・ 住民，各種団体，農事組合法人，企業などとの連携を強化します。
- ・ 地区出身者及び都市住民の応援，三原市などの支援を活用します。
- ・ 講習会，研修会，先進地視察などの実施による人材の育成を図ります。

### (3) 情報の受発信体制の確立

#### ア 地区内向け情報発信

- ・ 苮原自治区だよりの発行を検討します。
- ・ 若者世帯などに対し、インターネットを活用した情報の発信を行います。

#### イ 地区外向けの情報発信

- ・ インターネットを活用した苮原地区の情報発信体制づくりを行い、地区出身者、都市住民に対して地区の魅力・活動（年間行事・祭りカレンダー）を発信することにより、交流を推進します。

#### ウ 人材の確保

- ・ 苮原自治区のホームページを管理、活用できる人材を確保、育成し、タイムリーな情報の発信体制を確立します。

## 資料 計画策定の取り組み

### 計画策定の経緯

日 程	委員会等	協議事項
平成26(2014)年 6月28日(土)	第1回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域計画策定委員会の設置</li> <li>・「地域計画」策定の進め方について</li> <li>・アンケート調査, 意見交換会について</li> </ul>
7月19日(土)	第2回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査票の協議</li> <li>・アンケート調査日程について</li> </ul>
8月1日(金)～ 8月10日(日)	アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査の実施(地区内住民(16歳以上))</li> </ul>
10月11日(土)	第1回荻原地区活性 化意見交換会(ワー クショップ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査結果の報告</li> <li>・地区の魅力・資源と活用のアイデアについて</li> </ul>
11月8日(土)	第2回荻原地区活性 化意見交換会(ワー クショップ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区で困っていることとその解決のアイデアについて</li> <li>・参加者が関心のあること, 今後具体的に取 り組みたいこと</li> </ul>
12月6日(土)	第3回荻原地区活性 化意見交換会(ワー クショップ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ別の具体的な取り組みについて</li> </ul>
平成27(2015)年 2月7日(土)	第3回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画素案の協議, 修正</li> </ul>
3月7日(土)	第4回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画案の協議, 承認</li> </ul>